

藤川幸之助氏講演会

詩人・児童文学作家

支える側が支えられるとき
認知症の母が教えてくれたこと

60歳でアルツハイマー型認知症と診断された母との24年間を振り返りながら、介護の目々に込められた思いや気持ちを詩の朗読を交えて語っていただきます。

【講師プロフィール】 藤川幸之助

（ふじかわ こうのすけ）
○詩人・児童文学作家。
認知症の母親の介護経験をもとに、命と認知症を題材にした作品を作り続けている。自らの経験を詩の朗読を交えながら語る「認知症への理解を深める講演」は全国で好評を得ている。著書に、詩集『支える側が支えられ生かされていく』、詩集『満月の夜、母を施設に置いて』、絵本『おじいちゃんの手帳』など多数。

扉

認知症の母を
老人ホームに入れた。

藤川幸之助

認知症の老人たちの中で
静かに座って私を見つめる母が
涙の向こう側にぼんやり見えた。
私が帰ろうとすると
何も分かるはずもない母が
私の手をぎゅっとつかんだ。
そしてどこまでもどこまでも
私の後をついてきた。

*



私がホームから帰ってしまおうと
私が出ていった重い扉の前に
母はぴったりとくっついて
ずっとその扉を見つめているんだと聞いた。

それでも
母を老人ホームに入れたまま
私は帰る。
母にとって重い重い扉を
私はひよいと開けて
また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』（中央法規）

どなたでも
入場
無料

2026.2.14 土

開場＞13時30分 開演＞14時00分

主催：太良町地域包括ケアシステム研究会
Tara Community Comprehensive care system Network
後援：太良町・太良町医師会
電話：0954-67-0016（町立太良病院代表）

場所

自然休養村管理センター

太良町大字多良1-11 / ☎ 0954-67-0220

『太良町地域包括ケアシステム研究会』とは
平成29年7月に発足した、太良町の高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限りの住み暮れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を目指す医療・福祉・介護の専門団体の集まり。